

食へるものを得る
 魚をとっていた
 仕事場

海

父もその父も

先祖

顔も知らない父親たち

好き

太一

どんな表情の海も

おとう

天気かあれアる
 雨と海が非心しきう
 風が強く反抗的
 朝日や夕日が美しい

好き

ほくは魚師になる。

おとうといっしょに海に出るんだい

もぐり漁師

海にもぐる

魚をとつクエ

誰にももぐれない頼

一人でしている

すこうで海をよく知る経験豊富

おとうにしかできない

2メートルもある大物

ふつうよりでかい

クエのまてはでかい

しまんしない

海のめぐみだからなあ。

海がめぐんでくれた

命をめぐんでくれる

ある日、

①父

夕方になっても帰ってこなかった。
ふたんは
夕方まで帰っていた。

②海

海に出る
魚をとり
もぐり漁師
誰にもおくれな頼

仲間の漁師

空っぽの父の船
いかり
もり魚

引き潮を待った

水深が浅くなる
助けに(探し)に行ける

③ロープ

ロープを体に巻いたまま
死んでいた。カマキリ
ことときれていた
負けました

ながっていた

とろつとした
引き上げようとした

もりがささこてる

④頼の主

光る緑色の目をしたワニ

ニメートル以上の大物

らしい派

らしくない派

前向きに立ち

向かう

自分の力でやろうとしている
主やからぞとこまおきぞう

大物と魚でこまおき

したとこま

さびしいところに向かう

ところ

三

大1が中学を卒業する年の夏

弟子にしてほしい

与吉しいや おうに近い存在

父と考案が 近い魚師 魚師になりたい

一本づり 毎日行ってる

大1の父が死んだ頼

他の人にたいまつ 長年やっていた(テラン)

わしも年じや すいぶん魚をとる

きたがもつ魚を海に自然に遊ば

せてやりたいくなるとる

弟子をとりたいくない

魚をとりたいくない 命をとりたい

魚師をやめようかな

年をとったのなら、ほくをつえの代わり

頼

着くや すぐに

小イワシをすり針にかけて

水に投げる

ゆくりと糸をたぐる

金色の光をはね返して

五十センチもあるナイ

びくりしていた

つぎの手むきのこと

いきなりだったこと

正解 大きい

手吉しいと
と選んで

海のいのち 立松 和平

四

父に近い
弟はとりたくなかつたけど...
お年より... (テラフン)
与吉じい(父と知り合い)

瀬

めんどう

一本づり

もぐり

知ってる

考え方が近い

一本づり 毎日、イワシ
もぐり漁師をめぐらせる

其基を身につけさせたい

つり糸をいぎらせてもらえない

いろいろな学び

上がってきた魚がらつり針を外す

つまらぬささうな仕事

瀬のことを知るのには大事

一本づりの基を

たくさんいるより、必要な分だけ

とりすぎない

千びきに一本づりでいんだ

命の大切さ、戦手

ずとこの海で生きていけるよ

最初の一本づり、一本づりで満足しよう

自信 スタート

海のめぐみ

自然にまかせる